東京芸術劇場 Tokyo Metropolitan Theatre

tv asahi なんでも！クラシック 2014

tv asahi 55th anniversary

2月9日(日)13:00～　東京芸術劇場　プレイハウス

歌ってなに？ミドルエイジから"はじめる"クラシック

～55歳以上は550円コンサート！～

名曲オンパレード！55歳以上は550円で入場できるコンサート。
佐野成宏（テノール・お話）／佐藤正浩（ピアノ）

全席指定　54歳以下＝2,550円　55歳以上＝550円　*ひざ上のお子さまは無料

佐野成宏　©稲越功一

佐藤正浩

曲 目/解 説

トスティ：ROSA（薔薇）
フランチェスコ・パオロ・トスティ（1846～1916）は、イタリア中部アブルッツォ地方に生まれた作曲家で、「セレナータ」「夢」「祈り」「秘密」等数多くの名歌曲を世に送り、「イタリア近代歌曲の父」と呼ばれています。「バラ」もトスティに特徴的な甘美なメロディーをたたえた傑作の一つ。押し花となったバラにかつての恋人を思うロマンチックな歌です。

中田章：早春賦
「春と聞かねば知らでありしを、聞けば急かるる胸の思いを、いかにせよとのこの頃か、いかにせよとのこの頃か」と歌われる日本唱歌の代表曲。1913年、吉丸一昌編「新作唱歌」第3集に収められました。有名な「夏の思い出」の作曲家、中田喜直の父、中田章（1886～1931）の創作といわれています。まだまだ寒さが厳しい安曇野に来る淡い春の知らせ。文化庁と日本PTA全国協議会選定が選定した「日本の歌百選」の一編です。

伊勢正三：なごり雪
大分出身のシンガーソングライター、伊勢正三（1951～）は、大学在学中、南こうせつに誘われて「かぐや姫」のメンバーとなり、次いでデュオ・ユニット「風」を結成します。日本のフォーク界でも屈指のメロディー・メイカーといってよく、両グループ時代やソロ活動を含め、幾多のヒット曲が存在していて、中でも、1974年の「なごり雪」と「22才の別れ」が双璧です。「今、春が来て、君はきれいになった、去年よりずっと、きれいになった」と歌われる昭和の名作歌謡です。

岡野貞一：故郷
東日本大震災以来、再び日本人の心に寄り添い、人々を励まし続けて来た名曲中の名曲。鳥取出身の作曲家、岡野貞一（1878～1941）の作品とされますが、戦前の文部省唱歌で、合議制の作曲のため、はっきりしたことは分かりません。鳥取市と、これも作詞担当と推測される高野辰之が生まれた長野県中野市の両方に歌碑があります。

武満徹：小さな空
日本を代表する作曲家、武満徹（1930～1996）は、クラシック音楽の分野に留まらず、映画、テレビ、ラジオ、演劇の音楽にも巨大な足跡を遺しました。自身、ジャズへの愛着もあって、ポップスの作曲や編曲を楽しんで行っていたようです。「小さな空」は、子ども用ラジオ番組の主題歌です。「青空みたら、綿のような雲が、悲しみをのせて、飛んでいった。いたずらが過ぎて、叱られて泣いた子どものころを憶いだした」という武満自身による歌詞は、本人の少年時代がベースになっています。1962年の番組オンエア当時は、ジェリー藤尾が歌を担当しました。

クルティス：忘れな草
トスティのナポリ音楽院の後輩に当るエルネスト・デ・クルティス（1875～1937）もまた、イタリア歌曲の発展に生涯を捧げた作曲家でした。100曲をはるかに超す創作があり、世界的なテノール歌手、ベニャミーノ・ジーリの伴奏者としても活躍しました。実際、コンサートでジーリが歌ってヒットした曲も少なくなかったのです。1935年の作品「忘れな草」は、ジーリ主演映画「忘れな草」の主題歌に使われ、以降、テノール歌手の主要なレパートリーとなりました。

クルティス：帰れソレントへ
ソレントとは、ナポリ湾に面した風光明媚な観光地ですが、その宣伝のため、ソレント市長が作詞家のジャンバッティスタとエルネストのデ・クルティス兄弟へ委嘱した作品です。いまでは「オー・ソレ・ミオ」と並び、最も有名なカンツォーネの一つとなっています。「帰れ、ソレントへ、帰れよ」の絶唱が長く胸に余韻を残します。

プッチーニ：歌劇「トスカ」～星は光りぬ
イタリア・オペラの巨匠、ジャコモ・プッチーニ（1858～1924）が、生涯に作曲した12の歌劇のうち、「トスカ」「蝶々夫人」「ラ・ボエーム」をプッチーニ３大オペラと呼びます。「トスカ」の第3幕、死を前にしたカヴァラドッシが切ない恋心を歌うテノールの名アリア「星は光りぬ」です。

お問い合わせ：チケットスペース　03-3234-9999（月～土10：00～12：00／13：00～18：00）
※料金は全て税込・全席指定となります。
※やむを得ぬ事情により、出演者、曲目に変更が出る場合がございます。